

たかつき

地域力

第18号

《発行》
 高月地域づくり協議会
 広報研修委員会
 委員長 武田雅博
 <事務局>
 高月公民館
 TEL(0749)85-5204
 FAX(0749)85-5744

高月地域のようす
 (平成25年3月1日現在)
 人口
 男 5,008人
 女 5,126人
 合計 10,134人
 世帯数 3,221世帯

地域の課題に取り組んだ一年

高月地域づくり協議会 平成24年度事業を終える

高月地域づくり協議会(会長村井弘)は、地域内の自治会や各種団体、個人が集まり高月地域に暮らす人々の安全・安心のための課題解決に取り組んでいる。平成二四年度は協議会設立から二年目となり、課題を解決するために策定した「地域づくり計画書」に基づく事業実施の初年度でもあったが、年度当初に計画された事業は大きな成果を残しすべて終了した。

高月地域づくり協議会の平成二四年度事業は、昨年四月一日、指定管理者制度により長浜市から委託を受けた高月公民館の管理・運営から一年が始まった。四月は、年度初めに当たることから主に新自治会長を対象とする会員研修会が開催された。五月には、京都の亀岡市や千葉県で発生した、小学生の通学上の交通事故で社会問題となった通学交通安全点検が、伊香交通安全協会高月支部のみなさんを中心に警察官、保護者

など関係者が参加して各小学校ごとに一通学路を点検し、交通、防犯両面での危険箇所が指摘され、すぐに改善できるものは改善に取り組み通学路の安全度が一つ高まった。また、高月地区での子育てサロンも五月から毎月一回開催されることになった。六月には、ウオーキングブームを受けて唐川・湧出山への健康ウォーキングが開催された。また、イノシシ、サルなど鳥獣による農作物被害の対策研修会も開催されている。



△昨年11月、秋祭りの会場で来場者に振る舞う餅つきのようす

七月には、東日本大震災から一年余りが経ち、各自治会での防災活動の必要性を地域防災修会が開かれていた。学校の夏休みには学校プールの開放や高月中での補充学習支援も行われていた。八月には、市長へ冬期の除雪事業改善要望書を提出し、除雪路線の追加や消雪装置の敷設について改善を求めた。九月には、NHKアウンサーの野村正育氏を招き文化講演会が催され、報道などテレビ番組制作の裏話を聴講者は二十名を超えた。

高月地域づくり協議会は、設立三年目を迎える平成二五年度定期総会を、来る四月二十六日(金)午後七時三十分から高月公民館第二研修室での開催を準備している。定期総会は、協議会の代表者、公共的団体の代表者、協議会活動に賛同する個人が出席して開催される。平成二四年度事業報告と会計決算報告、平成二五年度事業計画と会計予算などが審議される。

4月26日(金) 定期総会開催へ

また、任期満了による役員改選も予定されており平成二五年度からの体制が整備される。地域づくり協議会の役割は、地域が困っていること(課題)を、地域のみんな(共助)、困らないように(解決)することです。今まで行政に頼り全てを任せていた公共サービスを地域の力で担う、新しい公共の実践であり、地域は地域で守る住民自治の推進だ。

十月には、国道8号沿道に散在する空き缶やゴミを拾いあつめる地域エコフォースの活動が小雨の降る中に行われた。十一月には、公民館で行われている文化の集いにあわせて駐車場を会場に多くのフードコートが並び収穫感謝祭が催され地域の秋祭りが誕生した。また、神戸へ防災と歴史を学ぶ一日バスツアーや紅葉の古橋鶏足寺への健康ウォーキングも開催されている。この他、地区社協や老々連との共催による集会所への支援活動など多種多様な活動が繰り広げられていく。実施されたどの事業にも多くの参加者があり、共助でめざましへあつたかつきなまちづくりが実践された一年だった。



◀ 素晴らしい器材が整った家庭科調理室



▲ 木製の机があたたかい美術室



▶ ホテルを思わせるきれいなトイレ



◀ 特殊なゴム製シートが貼られた体育館



▶ 日本固有の文化を習得する武道場

待望の高月中学校見事に完成



一年三か月の工事期間を経て、この三月十日に高月中学校の完成式が行われ、新しい高月中学校の歴史が積み重ねられる。

新校舎は、のどかな田園の中に位置し、その外観は、薄いピンク色をおびて、いかにも中学生が集う感じがさわやかに感じられる建物だ。校門を入ると、校舎の玄関まで導いてくれる。

校舎は、管理・特別教室棟、普通教室棟、武道場、体育館に分かれ、周囲には高月運動場と一体利用も可能な運動場、人工芝のテニスコート、駐車場が整備され、校舎内外とも環境の行き届いた中学校となった。

高月中学校は前身の高月中学校から数える歴史をもつ学舎だ。その間に一万数千人が巣立ち、家庭を守り、地域や日本の社会を支える立派な人材を数多く輩出してきた。

これから、この校舎で学ぶ子どもたちは、中学時代の三年間が人生の基礎をつくるかけがえのない時間であることを思い、勉強に、部活動に、友達づくりに励んでほしい。そして、学んだことを糧に、ふるさとを忘れず、世界で活躍する人となることを期待する。

思い出の校舎は取壊し



昭和四五年、改築に合わせ、校名を高月中学校に変え、四十二年間、多くの中学生たちを見守り続けてきた現校舎は、新校舎への移転により、この春取壊されることになる。

青春の思い出が消え去るようで、さみしい気もするが、友と語り、笑い、涙したあの日のあの時を、決して忘れはしない。

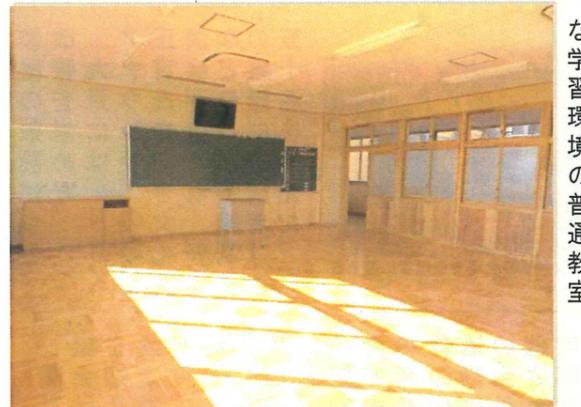
さようなら、思い出の校舎



▶ 5面を有する人工芝のテニスコート



▶ 地元産の木材を使った間仕切りの廊下



◀ エアコンが完備され、快適な学習環境の普通教室



◀ 高月運動場と一体利用ができる広い運動場



◀ 毎朝元気な声が聞こえてきそうな明るい生徒玄関

▶ 机も新しく、広々とした職員室



故郷を愛し、世界に羽ばたく人となれ

18名の高月・地域農業育成会議委員を委嘱



高月地域づくり協議会は、十八名の高月・地域農業育成会議委員を委嘱した。高月・地域農業育成会議委員は、農業者の高齢化や後継者問題、大規模農家への農地の集約、TPPによる影響など高月地域の農業を取り巻く課題について考えるも

委員には高月地域で農業を実践して

高月・地域農業育成会議委員

氏名	住所
1. 今川陽一	井口
2. 大橋豊彦	雨森
3. 小森茂和	高野
4. 森田忠男	馬上
5. 織田一巳	高月
6. 西畠正美	宇根
7. 杉本祐志	西野
8. 川寄誠	東柳野
9. 川田藤孝	東高田
10. 津田秀幸	唐川
11. 片山源之	西物部
12. 森川勝	東柳野
13. 小澤一樹	東柳野
14. 廣部忠彦	西阿閉
15. 大橋正和	雨森
16. 角田功	井口
17. 廣部孝義	西阿閉
18. 保積郷司	磯野

いる人、農業に関心のある人あるいは農

業に深い見識をもつ人などを集め、これからの高月地域の農業のあるべき姿を考えようとするものだ。農業を取り巻く課題を農業者個々の問題としてだけでなく、地域

だ。TPP交渉が決まるとが重要な課題として考えること

つつじ作業所からのつぶやき

障がいのある人たちは地域のなかでどのように暮らしているのでしょうか。ほとんどの人が親や兄弟姉妹に面倒を見てもらっています。作業所や障がい者事業所を利用し、自立して暮らす人はほんの一握りです。暮らしを支えるにはやはり生活費が大きな課題になります。

障がいのある人たちの暮らしを考える

つつじ作業所所長 福田義本

障がいのある人たちの暮らしを比較的に軽くといわれる二級年金(約六万五千円)を受給する人では、障がい者施設で働く工賃一万七千円(全障がい者が働く施設の場合)平均工賃)を合わせると月収は八万二千円ほどです。年間働いても二百万円

円より少ない収入の人を「ワーキング・プア」と呼びますが、障がいのある人たちの九十九パーセントが「ワーキング・プア」と同じ状況にあります。これは自立した生活や一人暮らしの生活はできないのが現状です。日本経済の先行きが不安定といわれる中、障がいのある皆さんからは、生活保護費基準額の引き上げや消費税の引き上げに大変不安を感じています。

平成二五年度から障害者自立支援法は廃止され、新たな「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)」が施行されます。私たちの望みは、障がいをもちながらも地域の中で安心して暮らせることです。私たちが地域作業所は、今後も地域の障がいのある人が働くことや活動で友達をつくり、命を育む場として大切にしたいと思います。

今後の地域づくりに積立へ

匿名者から、また寄付金二十万円

二月の中頃、村井会長宅に匿名者からまた寄付金が届いた。届けられた寄付金は二十万円で、前回と同様、協議会の活動費用にお使いくださるとの紙が添えられています。協議会では常任理事会を開き、この寄付金の対応と使途について協議がされた。寄付者のご厚意に感謝し、使途については前回と同様まことに基金として積み立て、有効に活用することとした。再度なるご厚意に感謝を申し上げます。

編集後記

春は別れと出会う季節と言われている。卒業や入学、退職や就職等々、家庭や学校そして職場で、様々な別れや出会いのシーンが見られる。▼昭和四〇年代、多くの子どもたちが学び、巣立って行った高月中学校(前香南中学校)も、新たな地へと移転改築された。校舎との別れと出会いの季節となり高月地域に育つものには一層感慨深い春となった。▼今春、高月地域づくり協議会も三年目の定期総会が行われる。自治会や各種団体での役員交代を受け、これまで役員を支えてきた役員さんの一部入れ替えが行われ、新体制でのスタートも予想される。▼多くの皆様方とともに、協働・共助のまちづくりが取り組まれ、さらなる一歩を踏み出す。期待される。新たな人々との出会いがあり、すてきなまちづくりの思いが芽吹く春がやってきた。